

クリス スチュアート

在大阪英国総領事

日本のアンティークを愛して

日本のアンティークが大好きで、野良着や浮世絵、火鉢、箆笥、筒描(つつがき)など、日常生活で使う民芸品や、鎧などの美術品を夫婦でコレクションしています。西天満界隈にある骨董店や東洋陶磁美術館、また四天王寺で毎月21・22日に開催される弘法市(蚤の市)を訪れるのは私たちにとってとても幸せな時間です。自宅には、40~50個のそばちょこコレクションがあります。

古いもの、新しいデザイン、見たことのないものに出会うと集めてしまいます。日本の歴史にもとても興味があり、とくに坂本竜馬、そして明治維新の頃の日本とイギリスとのかかわりに強い関心を持っています。明治維新前の日本海軍とイギリスには深いつながりがあり、時間があればもっと日本の歴史の本を読みふけりたいと思っています。

UK - JAPAN 2008

2008年は日英修好通商条約調印150周年を記念して、「UK-Japan 2008」を開催中です。さまざまなイベントや企画を通して芸術・科学技術・クリエイティブ産業の3分野で、現代の英国の創造性と革新性を紹介しながら、日英のコラボレーションの促進を目指しています。英国の良質なアートや舞台芸術、建築、デザインに代表される英国のクリエイティブ産業を紹介する多くのイベントが、西日本でも開催中です。イギリスの歴史や文化的なものについては日本でもよく知られていますが、科学技術、クリエイティブ産業がいかに素晴らしく、最先端であるかについてはまだまだ知られていません。今年4月に出席したディナーでは、クローン羊のドリーを作った科学者が日本の理化学研究所の科学者に会い、世界に先駆けた科学技術のコラボについて話し合いました。こうした形でイギリスと日本の提携の機会をつくらうとしています。

大阪には、世界をリードする大企業と最先端の技術を持つ中小企業があります。これらの企業とイギリスの企業、そして先端技術を持つイギリスの大学とのコラボレーションを一層進めたいと考えています。世界を牽引する企業があり、発展、変化、そして再生のプロセスにある大阪。イギリスの都市も、リバプール・マンチェスターなど、そのプロセスを経てきているのです。

大阪の文化

帰国前の同僚が相撲部屋に行き、とても魅力的だったとメールを送ってきたことがあります。ビジネスの街・大阪には、文楽や相撲場所など伝統的なもの、そしてすぐ近くにアクセスしやすいカントリーサイド(田舎)があり、リラクゼーションとレジャーに最適です。休みの日には、14歳の息子と芦屋浜でセーリングを楽しみます。本国では国立公園の近くピークディストリクトのカントリーサイドに住んでいたため、芦屋にいと故郷を思い出します。都会に近いのに、いのししに出会います。また、水都・大阪には水辺という大いなる資産があります。水路を探検するプランなどは、観光客を魅了しますね。

英国総領事館(大阪市中央区)にて

クリス スチュアート (Chris Stuart) 氏

1960年 10月5日生まれ

86年 英国政府安全衛生 検査官

97年 駐日英国大使館科学技術部 一等書記官

2005年 在大阪英国総領事館 副総領事

07年 4月 在大阪英国総領事館 総領事

科学学士(化学)・労働安全衛生学修士



表紙の人 / 出口最一 (でぐちまこと) 氏

演劇プロデューサー。大阪でブロードウェイミュージカル『TRIP OF LOVE』を制作、今年4月4日~5月14日、シアターBRAVA!にて初演。ニューヨーク在住。
/P2~5に記事